

14.06.21~22 蓼科山・北八ヶ岳山行報告書

M2 堀江 栄之

①参加メンバー（敬称略）

M3 田中 M2 堀江・堀江 （計 3 名）

②コースタイム

1 日目

本郷 05:00~09:00 女神茶屋 09:00~12:10 蓼科山山頂 13:00~13:30 將軍平
13:45~14:45 大河原峠 15:20~15:40 双子山山頂 15:40~16:10 双子池キャンプ場

2 日目

双子池キャンプ場 08:00~08:30 亀甲池 08:30~08:50 天祥寺原 08:50~09:50 竜源橋

③本文

1 日目

荷物の積み込みに思ったよりも時間がかかり、予定より 1 時間近く遅れて本郷を出発した。しかし、渋滞に巻き込まれることもなく、無事蓼科山の登山口に到着することができた。

準備運動とトイレをしっかりとすませ、9 時ごろから登り始めた。始めこそ緩やかな登りの樹林帯が続いたが、少しすると傾斜がだんだんときつくなっていき大きな岩が現れ始めた。久しぶりの先頭でペース配分を間違えてしまったらしく、山頂まで半分しか登っていないところで、かなりの体力を消耗してしまった。以後、こまめに休憩を取りながら山頂を目指した。

山頂付近では岩の大きさがさらに増して道が陰しくなった。しかし、樹林帯を抜けると冷たい風が木々に遮られることなく火照った体に吹きつけてくれて気持ちよかった。少しガスが出ていたが、ここからの眺望は山頂に勝るとも劣らないほど美しかった。

蓼科山の山頂は昼ご飯を楽しむ多くの人々で賑わっていたが、窮屈さを全く感じさせないほど広々としていた。サッカーグラウンドも作れそうなほど、平坦が広がる山頂を見たのは初めてだった。昼食と記念撮影の後に、周囲の山々や湖の眺めを楽しんだが、広い山頂を散策するのも一苦勞だった。

蓼科山の次は大河原峠経由で双子山山頂を目指した。下りも岩場で傾斜が急なので、手を使いながら慎重に下っていった。大河原峠まで順調に足を進め、いざ双子山山頂を目指そうというところで突然雨が降り始めた。夜まで降らないと言っていた天気予報に恨みながら、急いで雨具を用意して双子山山頂を目指した。双子山山頂も蓼科山ほどではないにしろ広々としていた。しかし、雨が降っていたので休憩は取らずにテント場がある双子池

に急いだ。

双子池に着く 16 時頃には雨は少し弱まっていた。林の中と池の畔でテントの設置場所に迷ったが、せっかく池のあるキャンプ場なので池の畔に幕営した。近くには早稲田大学のワンダーフォーゲル部も幕営していて、挨拶に来てくれた。「夜うるさかったらごめんなさい」と言っていた通り、あちらの夜はかなり盛り上がっていた。夕食にはカレーとスープを食べた。レトルトカレーとインスタントスープだが、味は悪くない。日本の食品加工会社のレベルは高い。こちらは明日の朝も早いので、夕食後は速やかに就寝の準備をした。今回のテント泊に備えて購入した新品の寝袋に入ると、明日雨が上がることを祈りながら床に就いた。



登山口である女神茶屋口にて。



急な斜面の岩場が序盤から続いた。



山頂付近は高木がなくなり、眺めが一気に良くなった。



山頂は岩が多いものの、広々としていて快適だった。



山頂の記念写真。



岩の隙間から覗く花もあった。



大河原峠からの眺望



双子山山頂。この時、雨がかなり降っていた。



双子池の片割れ。テントはもう一方の池に張れる。



非常にわかりにくいですが、池の対岸の畔に私たちのテントが張ってある。

2日目

朝4時に起床したものの、昨夕から降っていた雨は激しさを増していた。雨が弱まることを祈りながら朝食や荷物の整理をすませた後もしばらくテント内で待機していたが、一向に降り止む気配はない。仕方がないので予定していた池めぐりは中止にして、天祥寺原経由で竜源橋へ向かうエスケープルートで下山することにした。

テントを片付け終わって、双子池キャンプ場を出発したのは8時頃だった。間もなく亀甲池に到着した。雨のため視界が悪く、あまり長く立ち止まらなかったが、趣きのある良い感じの池であった。

この日のルートは木立の中を進むことが多かったが、天祥寺原では樹林帯がとぎれて開放感に浸ることができた。とはいえ、雨を遮るものもないので長居はせずに先を急いだ。

コースタイムが2時間半の短い行程だったので、休憩を取らず一気に車を駐車している竜源橋へと進み、車に荷物を積んで蓼科山をあとにした。竜源橋到着時刻が10時過ぎと、予定よりもずっと早く下山したので、渋滞に巻き込まれることなく帰ってくることができた。

初日は天候に恵まれて、広々とした蓼科山の山頂とその周辺の景観を満喫することができた。しかし、2日目は予想以上に強い雨が降り、北八ヶ岳の池めぐりを諦めざるをえなかったのが残念だった。いつか別の機会に北八ヶ岳を訪れ、その時こそ池めぐりを楽しみたいと思う。



(左) 亀甲池。おそらく亀甲の形をしているのだろうが、確認している余裕がなかった。

(右) 天祥寺原。晴れていれば、ここで休憩を取っていたにちがいない。